



## 小児在宅ケア研究会会報 第13号

2018年8月9日

### 【第14回小児在宅ケア研究会 年次集会のご報告】

2018年6月9日（土）に、第14回小児在宅ケア研究会年次集会を名古屋大学大幸キャンパスにて開催致しました。今年度は「社会の期待を子ども家族主体のケアにつなげる」をテーマとしました。今年度もスタッフを入れて、151名の方にご参加頂きました。



プログラムは、事例報告、報告、活動報告そして講演の順で行われました。

事例報告では、一般病院の外来で長期間にわたり継続して関わりをされている事例に関する発表がされました。病状が変化していく中で、お子さんやご家族の思いを共有しながら関わりを持たれてきた経過が発表されました。長い経過の中では、様々な意思決定をしなければならない場面に遭遇しますが、それまでの間のお子さんやご家族と看護師を含めた医療職との関わりが、その場面での対応に大きな影響を与えることを考える機会となりました。

報告では、2018年度医療行政改革に関する情報を、簡単にご説明させて頂きました。非常に短時間での報告となり、わかりにくいところも多くあったのではないかと考えております。医療行政改革に関する情報は、厚生労働省のホームページの分野別の情報「健康・医療」からアクセスして頂くと、様々な情報を得ることができますので、一度ご覧になってください。またこの報告の最後では、スマートフォンを使用しその場でのリアルタイムアンケートも実施しました。参加者のうち127名の方から回答を頂き、診療報酬等に関心があるのか、子どもや家族と関わる時に難しいと思う事など、その場で回答して頂き、参加者の皆様と結果を共有することができました。

活動報告では、産後うつに関する現状と支援に関する発表がされました。産後うつとはどのようなものであるのかについて、説明をして頂いた後、実際に行われている活動について説明して頂きました。産後うつを発症した母親には自殺企図が多いなど、出産後の子どもの母親は精神的に不安定な状況となりやすいので、そのような状況の中で生まれてきた子どもに健康上の問題があるとわかった場合の母親は、とても辛い体験をしている可能性があることを考えながら関わる必要があることを考えさせられる発表でした。

最後の講演は、「障がいを持つ子どもを支える - 小児外科医として - 」というテーマで、富田林障害児者医療福祉センター、四天王寺和らぎ苑の塩川智司先生にご講演頂きました。塩川先生からは、重症心身障害児のご家族の気持ちや、身体的な特徴などのお話をして頂きました。特に消化機能に関する特徴については、画像などを用いて詳細に説明をして頂き、胃ろうの管理方法などに関するアドバイスを頂くことができました。たくさんの資料をご準備頂き、具体的な管理方法などもお聞きすることができました。まだまだお話を聞きたい状況で、終了となりましたので、講演終了後もたくさんの方が、個別に先生に質問をされていました。質の高い看護を行うためには、お子さんやそのご家族の思いによりそ

うとともに、適切なフィジカルアセスメントができ、そのお子さんの健康状態に合わせた関りをすることも重要であることを再認識致しました。

今回も、参加して頂いた方にアンケートを依頼し、今回参加していただいた方のうち 119 名の方から回答を得ることができました。参加者は、名古屋市を含めた愛知県の方が 1/4 程度で、近隣の岐阜県・三重県・静岡県の方と合わせると半数が近県の方となりましたが、半数以上はそれ以外の遠くからのご参加の方という状況でした。所属部署は 8 割を超える方が、施設で勤務をされている看護師で、それ以外に、例年と同様に 1 割程度の訪問看護ステーションの看護師の方のご参加がありました。全体の感想に対しては、9 割近くの方が「満足した」又は「少し満足した」と回答されており、具体的な事例のお話を聞くことができてよかった、親の気持ちを尊重しつつも子どもの健康状態をしっかりと観察することが必要であることを確認できたなど、様々な感想が書かれていました。今後の研究会活動への要望につきましても、様々な意見をいただいております。全てのご要望にお応えすることは大変難しいのですが、皆様から頂きました貴重なご意見を、今後の活動に反映させていきたいと思っております。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。アンケートの詳細は、資料として同封させて頂きますのでご覧ください。

今年度は例年より時期が少しはやかった事もあり、発表して下さる方が集まらず、準備の段階では、どのようになるかと心配しておりましたが、多くの皆様のご協力のもと無事に「第 14 回小児在宅ケア研究会年次集会」を終了する事ができました。本当にありがとうございました。



#### 【第 14 回小児在宅ケア研究会総会のご報告】

第 14 回小児在宅ケア研究会総会が、年次集会と同日の 6 月 9 日に開催されました。議事の中では、現在の会員数（156 名）報告、平成 29 年度の活動報告が行われました。その後、平成 29 年度の決算・会計監査（案）、平成 30 年度の活動計画（案）、平成 30 年度の予算（案）に関する審議が行われ、全ての事項について承認が得られました。詳しくは、同封させて頂きました総会資料をご覧ください。

#### 【あとがき】

今年度は、6 月の大阪北部地震、7 月の西日本豪雨、その後の異常な暑さなど様々な自然災害に翻弄されつつ、日ごろの備えの大切さや、人と人とのつながり、時の大切さを感じる日々となっております。

このような状況の中、日本小児看護学会第 28 回学術集会の企画・運営にも携わり、慌ただしい半年を過ごしてまいりました。学術集会の会場で小児在宅ケアコーディネーター研修会の修生にもたくさんお会いすることができ、大変うれしく思い、また頑張らなければと決意を新たに致しました。

会報では、会員の皆様に活用して頂ける情報も発信できたらと思っております。会報内容に関してご希望等がありましたら遠慮なく研究会事務局までご連絡下さい。会員の皆様のご意見を取り入れ、少しでも皆様のお役に立つことができるような活動をしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力よろしく願いいたします。

\* 会員の方で連絡先等に変更がある場合は、お早めに研究会事務局までお知らせください。ホームページからも手続きをすることができます。（文責：堀妙子）

